

Step 4 単元計画の検討

必要性

学習に動機を与え、必然をもたせる手立て

う 目的意識・相手意識を明確にもたせる言語活動

学習に「～したい」という必要感をもたせるために、「何のための学習か」、「誰に対する発表か」等を明確にすることで、意欲付けを図るようにしています。
例) 3・4年「書くこと」《共通の言語活動》
「来校者に分かりやすく伝えます!学校紹介新聞」
※ 4年生の新聞の一部に3年生の報告書を取り入れる活動をしました。



関係性

知識及び技能同士を結び付け、自分の考えを広げたり深めたりする手立て

い 叙述をもとにした追究活動

国語科ゆえに課題解決の際に、叙述をもとにした調べ学習や叙述を根拠にした話し合い活動を行うことで、考えの理由が明確になり、より確かな学びとなります。
そのことは自分の考えを広げたり深めたりすることになり「～ていいな」という実感を持った習得につながっていくと考えます。



単元という長いスパンで学んでいくことが多い国語科において、単元全体を大きく「意欲付け」「習得」「活用」の三つの過程でとらえるようにしました。

「意欲付け」では「～する必要がある」という学ぶ必要感を、「習得」では「～ていいな」という実感を、「活用」では「～できたよ」という達成感を子供たちにもたせるようにします。

教材を指導するのではなく、教材で「習得」したことを、他の学習でも「活用」できる力を育てるという考え方で単元計画を検討します。

意欲付け	習得	活用
<p>学習活動 イメージ 「○○くらへ困難」 「分りやすい困難をつくって図書室にならよう。」</p> <p>1 学習計画 ① 11月1日より12月31日まで毎日10分ずつ読む。 ② 自分で困難を作成する。 ③ 紹介(説明)する。</p>	<p>学習活動 イメージ 「おすすめの○○困難」 「おすすめの○○困難」</p> <p>2 学習計画 ① 11月1日より12月31日まで毎日10分ずつ読む。 ② 自分で困難を作成する。 ③ 紹介(説明)する。</p>	<p>学習活動 イメージ 「おすすめの○○困難」 「おすすめの○○困難」</p> <p>3 教材文「○○○○」から学ぶ(読み取る) 【文章構成】 「問い」</p> <p>4 内容の読み取り ・ 学んだ読み取り方を生かして事象B、事象Cについて読み取る。</p> <p>5-6 内容の読み取り ・ 学んだ読み取り方を生かして段落②③④について読み取る。</p> <p>7 読み取ったことから困難作りの仕方を学ぶ。</p> <p>8-10 「○○くらへ困難」を作る。</p> <p>自由進度学習</p>
<p>「○○くらへ困難」を作る。</p> <p>どうすれば○○くらへることできるだろうか。</p>	<p>「おすすめの○○困難」</p> <p>「おすすめの○○困難」</p>	<p>「問い」</p> <p>「○○のよさの説明」</p> <p>「まとめ」</p> <p>「学んだ読み取り」</p> <p>「学んだ読み取り方を生かして段落②③④について読み取る。」</p> <p>「読み取ったことから困難作りの仕方を学ぶ。」</p> <p>「学んだ読み取り」</p> <p>「学んだ読み取り方を生かして段落②③④について読み取る。」</p> <p>「読み取ったことから困難作りの仕方を学ぶ。」</p> <p>「○○くらへ困難」を作る。</p> <p>自由進度学習</p>
<p>時間的な順序を考えて比べて読む力</p>	<p>事柄の順序を考えて、大事な言葉や文を生かして説明する力</p>	

単元において、子供が「必要性」、「自律性」、「関係性」、「有用性」を感じられるように、学習活動から、おおよそ左のように考えてみます。

各時間、学年間で似たような学習内容や学習活動にそえることで、子供が学びやすくなるだけでなく、教師も指導しやすくなります。また、異学年での学び合いも取り入れやすくなります。

自律性

学習内容・方法を自分の意志で決められる手立て

あ 子供主体で組み立てる学習計画

グッドモデルを参考に、この学習でどんな力を身に付けるのかを考えさせます。そのために教材文ではどんな事をどんな順番で学習すればよいか、子供たちの考え(短冊)を出し合い、似たものをまとめたり、並び替えたりして子供たちの学習したい内容を中心に学習計画を立てていきます。



有用性

学習に意味を見だし、自分の資質・能力に自信がもてる手立て

え 習得した学びを活用する自由進度学習

単元の「活用」段階においては、単元のまとめ(発表会等)の時間を設定して、そこへ至る学習については、子供の学習進度や追究の方法に応じて、個々に委ねる学習も行います。習得した学びを活用して自由進度で学習するため、教師も柔軟に個別指導に入ることができ、「～できた」という個々の達成感から自信へとつながっていきます。



Step 5 1 単位時間の指導計画の検討

必要性

学習に動機を与え、必然をもたせる手立て

これまでの生活経験や既習の学習内容では解決できないような課題設定を行ったり、複式学級の特性を生かして、両学年共通の課題設定を行ったりして、「挑戦したい」、「解決する必要がある」という必要感や意欲をもたせるようにしました。

あ Which型による課題提示

課題をWhich型で捉えさせることで、全員が必然的に学習に参加するだけでなく、考えやその理由を明確にできます。



関係性

知識及び技能同士を結び付け、自分の考えを広げたり深めたりする手立て

ホワイトボードやタブレット端末を活用して可視化されたそれぞれの考えから、働かせた教科等の見方・考え方を中心に共通点や関連性を生かせるような話し合いを展開するようにしました。

い 考えの可視化・類型化による話し合いの焦点化

考えを可視化し、共通点を見付けたり、同じ考え同士で類型化したりすることで、考えを広げたり深めたりできます。



単元のゴールの活動に向かうために、各時間の学習の目的をしっかりとつことが大切です。例えば…

「比べて読む力」を身に付けるために、この時間は教材文「どうぶつの子ちゃん」で「二つの場面の比べ方」を習得する。

というイメージがもてるようにしています。



過程	主な学習活動	四つの視点に基づいた具体的な手立て
1	単元のめあてとゴールの確認	必要性
2	前時の復習	自律性
3	学習問題(本時の学習)の確認	関係性
4	気付いたことの話合い	有用性
5	めあての設定	
6	解決の見通し	
7	自力解決	
8	考えの共有	
9	学習のまとめ	
10	習熟	
11	振り返り・交流	

自律性

学習内容・方法を自分の意志で決められる手立て

関連する既習事項をいつでも確認できるように教室掲示やICT環境を整備したり、具体物を操作できるヒントコーナーなどを設けたりすることで、自ら学び自ら考える学習を促すようにしました。

あ 1人1台のタブレット端末の効果的な活用

タブレット端末の機能を選択・判断して活用することで、子供が自ら解決に向けて学習に取り組むことができます。



有用性

学習に意味を見だし、自分の資質・能力に自信がもてる手立て

自己の変容をその要因で捉え、学ぶことのよさを実感できるようにしました。また、両学年、領域や単元をそろえて学習ができるよさを生かし、互いに学びの振り返りを交流することで、学習内容の系統性をより捉えやすくなりました。

う 両学年の学びを交流する場の設定

上の学年は前学年の内容と関連付けたり、下の学年は今後の学習の見直しをもてたりするなど、系統性を捉えることができます。



単元計画と同じように1 単位時間も学習過程に沿って「必要性」、「自律性」、「関係性」、「有用性」の視点の順に考えることが多いです。

しかし、場合によっては、1 単位時間内に全ての視点が含まれていなかったり、視点の順番が入れ替わったりすることもあります。

学習内容や子供の実態に応じて、各視点を踏まえた手立てを講じることが大切です。

